

地域おこし協力隊「スポーツ指導者支援プログラム」

目的

地方における運動指導者不足を解消し、子どもから高齢者まで幅広い世代の健康づくりと交流の促進を図る。協力隊員が定住後も地域クラブなどで活動を継続。

背景

- 地方では運動指導者・部活動指導員・スポーツクラブ運営者が慢性的に不足
- 教員の部活動負担軽減が急務となる中、民間の担い手の確保が必要
- スポーツを通じた健康増進と地域コミュニティ形成への期待が高まっている

協力隊としての活動（地域スポーツ支援）

- 小中学校の部活動支援・指導（サッカー、野球、バスケなど）
- 高齢者向け健康体操・ストレッチ教室の開催
- 地域スポーツイベントの企画・運営
- 放課後・休日のスポーツ教室や体験会の開催

資格取得・スキルアップ支援

- スポーツ指導者資格（JSP0 公認コーチ等）取得支援
- 応急手当・スポーツ心理・栄養指導など関連研修の受講支援
- 指導力・マネジメント力を高める研修カリキュラム

定住・継続支援

- 任期終了後は地域の総合型クラブ、NPO、学校と連携して継続活動
- 自営業型（パーソナルレッスン等）の開業支援
- 地域スポーツ文化の担い手として地域に根付く仕組み

自治体のメリット：部活動・地域スポーツの担い手確保、健康増進、交流促進

協力隊員のメリット：地域と密接に関わりながら専門性を活かして定住・自立可能

地域の伝統文化継承の育成などにも活用可能